【A 本校の求める子ども像・学園の一貫教育についてに関してのご質問】

Q1：御校にはどういう性格のお子様が向いていますでしょうか。行動観察ではどういうお子様が合格している傾向にあるか等はありますでしょうか。

Q２:協調性が無いタイプの子は本校では受け入れて頂けないのでしょうか。

Q1、２への答え：答え：本校には様々な性格の児童が学んでいます。おとなしい子、積極的な子、慎重な子、本当に様々です。しかし全体として「子どもらしい素直さを持つ子」が多いと思います。自分が周りの人か ら大切にされているという安心感の中で育ち、情緒的に安定していることは、児童期の成長過程の中で大切にしたい視点だと考えています。本校の入学試験に臨まれるにあたっては、「自分の思っていること、伝えたいことを言える子、自分の身の回りのことが年齢相応にできる子」であってほしいと思います。年齢相応の自律ができているかどうかが大事です。2番目のご質問の「協調性」についてですが、入学試験はお子様にとって非常に緊張する場面だと思います。大人でも初めて対面する人とグループ活動を円滑に行うのは難しいはずです。小さい子どもの場合「協力したいな」「みんなとやりたいな」と思っていても行動まで移すことは非常に勇気がいることです。入学試験の行動観察では、場が和むようアイスブレークなどのゲーム性のあるものを取り入れ、楽しい雰囲気の中でグループ活動ができるように工夫された内容となっています。毎年、入学試験の最後に教室を出る子どもたちは皆、「楽しかった！」と笑顔で教室を後にします。本校の試験時間は長いのは、楽しく活動する中で見えてくる、「その子本来の良さ」を見つけるためでもあります。

Q３:御校に入られてから、その中でも特に伸びている（成長している）子の特徴をご教示ください。

Q４:６年後、12年後のこども達の成長された具体的なエピソードを教えて頂けましたら幸いです。

Q５:成長の過程（年齢や性別）で一貫教育校として、それぞれのステージで期待したいことや応じたプログラムなどお聞かせください。

Q3～５までへの答え：本校に入学したどの子どもたちも皆、机上の学習だけではないバリエーションに富んだ学校生活を過ごしながら、それぞれの歩みで成長していきます。伸び代が大きいと感じるのは、教科の学習においては習ったことを覚えるだけでなく、自主的に実体験に置き換えたり、さらに自分で調べたりして自らの好奇心で深めていくことができる子たちでしょうか。6年後、12年後の子どもたちですが、初等部の居心地が良かったためでしょうか、卒業、就職、結婚等の節目に多くの卒業生が母校を訪ねてきます。中高等部が学年規模が大きくなく、一人ひとりに目の行き届く学校生活であり、進路、進学指導についてもきめ細かく対応することもあるのでしょう。やりたいこと、進みたい進路を見つけ、学びたい学部に進学しています。進学先は難関大学をはじめとして、音楽、美術等の専門性の高い大学や、海外大学等、多岐に渡っているのも、理系に進学する生徒が4割ほどいるのも大きな特徴です。本学園の教育理念は「人徳を備え、自らの力で人生を切り拓き、世界の力、社会の力となる人材の育成」です。本学園は幼稚園を基点として４つのステージがあります。その中で、初等部では「人」としてのしっかりとした土台作りに重点をおいています。「善悪の判断」や「自分の心と体を大切にする」こと、「自ら進もうとする力」などは、人とのつながる速度や世界の広がりが加速度的になる青年期において非常に大切な力です。これらの力は机上の学習だけで得ることはなく、自然の中で友達と遊んだり、「美しいものを美しいと感じる体験」等、実体験を通して育まれるものです。瑞々しい好奇心や柔軟な感性を学校生活を通して育んでいきたいと考えています。林間学校などの宿泊行事は、人間形成を大切にする学校の方針を体現しているプログラムの一つです。宿泊行事は卒業までに延べ21泊27日(←コロナ禍明けのための回復途中段階のため。通常は22泊28日※校内合宿除く)あります。「〇〇に行って楽しかったね」で留まるのではなく、生活そのものを現地で行うことで、友だちの良いところ、気になるところも受け止め、お互いに理解しあって生活する術を身につけていきます。自分も完璧な人間ではなく、お互い様であることを理屈ではなく実体験を通して理解していくのだと思います。家族と離れ、友だちとの共生を身をもって体験することで、自分の身の回りのこと(身体面、食事等含め自律・自立)が、一人の人間としてできるようになっていきます。現在社会で育てにくくなっていると言われている「心の適応力」も発達段階に応じてはぐくんでいける良い機会でもあります。学園を卒業した子どもたちが結婚して各々家庭を持ってもなお交流を持つ人が多いのも、本当の意味で心の底で気持ちが繋がっていることの表れではないかと思います。

【B　教育活動の特色についてのご質問】

Q６:様々な特色あるカリキュラムは、どのようにヒントを得て、考案、作成されていますか。

答え：特色ある様々なカリキュラムは、今までの教育活動の蓄積の中から導き出され、淘汰され進化してきたものです。また現在の社会情勢や10年、20年先の社会を見据えて、日々研究し、新たな取り組みをチャレンジし、カリキュラムに取り入れています。

Q７:3つの柱としてランゲージ・アーツ（言語技術）を掲げられていますが、実際には1年生では年間のうち何時間程度授業が行われるのでしょうか。また、その授業を行うことで、日常生活へ良い影響が現れているなどありましたら教えて頂けますでしょうか。

答え：ランゲージ・アーツの授業は1、２年生では年間９時間行います。3年生以上は6時間です。最初は絵本の読み聞かせから始まり、聞き取った物語を再現する、といったプログラムを通して、「ことば」の使い方についての正しい知識を身に付け、文章を読み取る力や、「ことば」による表現のスキルを身につけていきます。高学年では、他の教科でも一人ひとり書く力、伝える力が伸びていると感じる場面が多くあります。中等部でもランゲージ・アーツの授業が続きます。大学受験の際の小論文作成も苦にしない人が多くなっていると聞いています。

Q８:高学年の算数は、中学数学を先取りしたりしますでしょうか？

答え：教科書にとらわれず広め深めることは大切にしていますが、先取りはしておりません。1つの問題を様々な解き方で考える授業を展開しています。

Q9:英語教育について時間数、先生、カリキュラムの内容について教えてください。オーストラリアのホームステイではどのくらいの費用がかかりますか？

答え：英語は低学年は週１時間、3年生以上は週２時間です。4年生からはクラスを２つに分ける二分割授業をおこなっています。指導者はイギリスの公的機関であるBritish councilより2名のネイティブの講師を招聘し、2024年度より初等部の日本人英語専任教諭を加えて3名体制です。森村オリジナルのカリキュラムで行っています。海外の文化に触れながら楽しく英語を学ぶ中で、綴りと発音の関係性(phonics)を大切に、４つの技能(reading・writing・hearing・speaking)の習得をバランスよく促します。British　councilの教材開発力、教員の質の高さは全世界で定評があります。何より英語が好きになるようこと、英語をもっと学びたいという気持ちを大切にしています。オーストラリアの語学研修の費用は今年度約59万円です。

Q10:英語、算数は４年生から２クラス分割のようですが、成績順なのでしょうか？

答え：英語に関しては単純にクラスを二分割しています。算数については、単元、学年の状況によって変わります。英語の同じように単純に出席番号等で分けることが多くなってきていますが、関連のある既習単元の習熟度によって分けることもありますし、希望によって基礎をじっくり身につけたい小クラス(10名前後)と、議論などを通して課題をさらに深めていく大クラス(30名前後)に分かれる場合もあります。

Q11：補習のようなサポートはありますか？

答え：３年生から週１日、希望者に放課後の時間を使って学習会をおこなっています。また、休み時間に質問にくる児童もいますので、丁寧に納得がいくまで導きます。夏休み、冬休みの長期休みに5，6年生希望者に算数の学習会を、夏休みに1，2年生の希望者に英語プログラムを行っています。

Q12：幼稚園生や中高生との交流はどれくらいありますでしょうか？

答え：１年生は森村幼稚園の年長藤組との交流を定期的に行っています。自分たちで考えた出し物をしたり、学校内を案内したりします。少子化の進んだ現代において、自分より年下の相手とコ ミュニケーションをとる経験そのものが減っています。相手の立場に立って考えることは、自律の精神を育みます。また、幼稚園生との交流だけでなく、初等部内でも縦割りの活動を多く取り入れています。中高生との交流については、初等部在校生対象に、中高等部の本格的な部活を体験できる「中高オープンスクール」を行っています。また、6年生対象に中高等部生による「中高等部紹介」を行い、中学生の生の声を聞くことで、少し先の自分の未来を想像し、次のステージへの想いを膨らませます。

【C 家庭学習についてのご質問】

Q13：長期休暇である夏休み、または普段はどの様な宿題の量や内容イメージですかか？

答え：夏休みの宿題は少ない量です。自由研究、制作などは一切求めていません。全員に同じ内容、同じ量を課す宿題から、必要な内容、適切な量を、できれば自主的に設定するという自学スタイルに学年が進むにつれて変化していきます。普段の宿題については、繰り返しの練習が必要なひらがな、漢字などが出されていますが、一律に提出を求めるものは減ってきています。

【D 卒業後の進路・内部進学についてのご質問】

Q14：内部進学以外の方の割合や進学先を教えていただきたいです。

Q15：併設中学の外部生との学力の差を埋めるためのカリキュラムの工夫（中学受験カリキュラムの取入れなど）はございますか？

Q14,15への答え：内部進学は年度によりますが、例年約80～90%の子どもたちが中等部へ進学しています。内部進学の枠(定員)が決められているわけではありません。外部の中学を受験する場合は、内部進学はできません。外部の中学へ進学する児童の進学先ですが、いわゆる難関中学をはじめとして、スポーツに特化した学校、学校外の活動に注力するために公立校等、様々です。中等部からの入学者との学力差についてですが、内部進学者は時間内に得点する訓練はしておりませんので、入試問題において得点する力には中学入学当初は差があります。しかし、納得できるまで学びを深めた経験や、課題へに向き合う姿勢が中等部進学後、新たな学びに生かされ、1年もすれば混ざり合ってその差がなくなると聞いています。中学から新しい教科が始まることや、また中学受験で入学してくる人にとっては、入学がゴールですが、初等部からの内部進学者はその感覚がありません。初等部の時から毎日コツコツと学習する習慣が身についているためか、中学に行っても日常的に学習するのだそうです。ちなみに一昨年の東京大学、京都大学の合格者は初等部出身です。中学受験のカリキュラムの取り入れに関してですが、中学受験はどちらかといえば「解をどれだけ正確に速く導き出せるか。」を測るものです。本校の授業では、知識をどれだけ多く覚えているか、ということよりも「知識をどのように組み合わせて活用するか」や、「正解は本当に一つなのか、他にも正解の導き出し方はあるのか。」等の思考力、応用力に重きをおいています。もちろん、6年生では中等部から入学してくる子どもたちが、どんな試験を経て入学してくるのかを知り、中学進学への意識を高めてもらうために、授業の中で森村学園中等部の過去の入学試験問題を解いてみることも行っています。入試問題の中には、小学校の学びの総合力を求める発展的なものもありますが、入学試験では合否を判定するための得点差を生じさせることも必要であるため、問題の中には中学以降に不要な部分も少なくありません。

【E 放課後の過ごし方・学童について】

Q16：提携していらっしゃる学童はありますか。また、長津田からの通学は子どもの足では遠いでしょうか。

Q17：共働きのご家庭のお子さんは、学校終了後の学童はどの辺りに行かれてるのか、また、習い事など含めどのように過ごされている方が多いか、傾向を教えていただけると幸いです。

Q18：５年生からクラブ活動がありますが、１～４年生は放課後どのように過ごしていますか？森村の森はどのような時間帯に利用できるのでしょうか？

Q19：民間学童への立寄可否について。

Q20：低学年の放課後遊びはいつぐらいから利用できるのか。

Q16～20への答え：現在、お仕事を持たれているお母様がクラスの半数以上いらっしゃる状況です。本校には併設の学童はありませんので、必要に応じてそれぞれのご家庭のニーズにあった民間の学童を利用していらっしゃいます。多くは「自宅の近くの学童保育」「保護者の職場に近い学童保育」です。悪天候の場合や、緊急で下校しなければならなくなった時、なるべく学校としては速く安全にご自宅に帰宅していただきたいと考えています。民間の場合、時間やプログラム、食事等、ケアが充実しているところも多く、つくし野駅までお迎えのバスが来ている学童保育もあります。1年生から4年生までの放課後の過ごし方ですが、１、2年生は2時50分まで放課後遊びに参加する児童も多くいます。3年生は通常3時30分まで、4年生以上は3時40分ごろまで学校で放課後遊ぶことができます。多くの子どもたちが、それぞれ好きな場所で放課後を過ごしています。森遊びについては低学年は教員と一緒に行くことになっています。3年生は休み時間も森で自由に遊ぶことができます。長津田駅からの徒歩通学は、長津田駅周辺にお住まいの場合を除き初等部では許可しておりません。(長津田駅から学園までの道にガードレールがなく、車の交通量が多いため安全が確保ができないという理由から。中高生は利用可）Q20については、１年生は学校生活に慣れてきたころから放課後遊び(14時50分まで)を行っています。

【F 学校生活に関するその他のご質問について】

Q21：スマホや携帯、ＧＰＳの携行はＯＫでしょうか

答え：現在、KIDS携帯、GPS機器の携行は届出制で許可しています。校門通過情報をキャッチできる端末の貸し出しも可能です。

Q22：制服のまま習い事や塾に行くことは許可されていますか

答え：制服のまま習い事に行くこと(学童保育は除く)は、学校は原則として認めていませんが、保護者の責任下での対応をお願いしています。 遅い時間に児童が一人で移動することは安全上心配です。制服のまま習い事や塾に行くことは認められていません。

Q23：親の来校頻度はどの程度でしょうか

答え：学年懇談会をはじめとして学級懇談会が年に3～4回、面談は年に2～3回程度行います。参観日は年間５回設定(出欠確認はありません)し、その中で都合の良い時間に参観できるように配慮しています。主な行事についてはなるべく休日に行うなど、お子様の成長をご家族の方に見届けていただけるようにしています。(音楽会のみ平日の午後)

Q24：４月入学時の集団登下校について。

答え：集団登下校は実施しておりません。登下校の最寄り駅または方面別にグルーピングしており、年２回顔合わせの時間があります。通学時、駅ごとに電車の乗車車両が決められていますので、同じ駅を利用している子どもたちどうしはお互いがわかるようになっています。1、2年生は下校時に担任と担任助手がつくし野駅ホームまで毎日見送りに行き、乗車を見届けます。

Q25：送迎について決まりはありますか。車・タクシー送迎の可否なども知りたいです。

答え：入学後、10日間の送迎をお願いします。その後は一人で通うことになりますが、子どもによって乗り換え回数が多かったり、遠方から通っていたりそれぞれ事情が異なります。送迎の終わりは、それぞれのご家庭でご判断ください。なお、登下校は社会性、マナーの面で大切な学びの機会と考えていますので、車、タクシーでの送迎は認めていません。

Q26：朝の始業前の時間に外遊びはできますか？

答え：制服から体操服に着替え、提出物や始業準備等の朝の支度が済んだ人から遊べます。

Q27：一年生の生徒さんは登校時最寄駅に何時ごろに到着されていますか？

答え：下校と異なり、全学年の登校時間が一定の時間に集中するため、安全上の観点から詳細な時間についてホームページ上ではお伝えできません。今後に行われる私学フェアや学校説明会等で直接教職員におたずねください。

Q28：学園内にいじめが発生する場合の対応の仕方を教えて頂けると幸いです。

答え：「いじめ」は、現行の『いじめ防止対策推進法』において、児童が「心身の苦痛を感じているもの」と定義され、ひと昔に比べると「いじめ」とされる事象の範囲が広くなっています。つまりどの学校でも大なり小なりいじめは存在するのが現状である、との認識をもつことが重要です。そのような意識を持って教育活動を適切に行っていくことは、教育関係者として重要な資質の一部と捉えています。私たちは日常的に「いじめが起きない集団作り」を意識し、起こった際には、迅速にかつ組織的に対応できるよう努めています。本校ではスクールカウンセラーを含む「いじめ対応委員会」があり、児童の日常の様子、その中に重大なケースへと発展してしまうようないじめの萌芽を見逃すことのないよう、情報を共有しています。幅広い専科制を採用しているため、一人の児童に多くの教員が関わっています。多くの教員の目で子どもたちの様子をよく見たり、話を聞いたりしています。私たち教員は日々の学校生活の中で、子どもの自己肯定感を高めるような温かい言葉がけやまなざし、励ましなど、子どもと教員の距離が良い意味で近くなるように心がけています。子どもたちが安心して自分の思っていること、感じていることを伝えられるような関係性を築いていきたいと考えています。また本校のカウンセラーは、児童のちょっとした悩み事の相談や、保護者の方の育児相談も受け付けています。全校児童に「いじめに関するアンケート」を年間３回行っているほか、メンタルボックスという相談箱が置かれ、誰でも今の困りごとを発信できるようになっています。3年生以上の各クラスに専科教員をサポート教員として配置し、子どもたちの様子を見守っています。

Q29：災害時にはどのような対応をされていますか？

答え：まず地震についての対応ですが、校舎は耐震補強工事を行なっており、安全です。災害時の備蓄品として児童一人につき１週間分の食料を備えています。学校全体の災害用の設備として、非常用電源をはじめとしてプールの水を飲料水に変換できる機器なども備えています。各種防災訓練も定期的に行い、教職員は子どもたちの安全の確保に努めています。連絡手段は通常よりメールシステム(ミマモルメ)を使用しており、保護者への迅速な情報の提供を行っています。

Q30：都内からの通学実績や都内からの通学児童の放課後の過ごし方を伺いたいです

答え：全校児童の約25％は都内23区からの通学者です。交通インフラの発達によって、都内からの所要時間がこの十数年で格段に短くなっていることも理由の一つなのでしょう。放課後は、各ご家庭の方針にもよりますが、下校時刻ギリギリまで「放課後遊び」の時間を楽しみにしている児童も多くいます。学校ではお友だちとたくさん遊んで、帰宅したら習い事や宿題、お家のお手伝いをする、というようにメリハリのある時間の使い方をしている児童が多いと思います。

【G 入学試験に関するご質問】

Q31：入学試験における生まれ月への配慮はありますか

答え：願書を締め切り後、誕生日順(遅く生まれた人が先)に並べ直し、受験番号を振ります。試験当日、同じグループの子どもたちは、月齢にあまり差がない集団となります。